

溶接のまち石巻を全国に！

グループ名：宮城県東部地域鉄工・溶接サプライチェーングループ

取材先：(株)宮富士工業 後藤 春雄 社長 (宮城県石巻市)

(株)宮富士工業は、各種プラント設備の設計・製造・据付を業とし、高度な溶接技術を持つ。



●震災の被害は？

津波が約 2.3m まで達し、建物以外の普段使用していた溶接機など設備、車両が全損。被害総額は約 2 億円。従業員は、いち早く帰宅させたが、一番若かった社員 1 人が亡くなってしまった。何故という思いで、誠に残念。



後藤社長と社員の皆さん

●グループ補助金を活用された感想は？

補助金を活用し、機械設備の導入や施設の補修等を実施している。グループ内で不足する機械類を持ち合うことで、設備の稼働率は震災前の 7～80% まで回復した。

仕事もシェアすることで業績も徐々に回復している。

津波により何もかも流され、土台しか残らなかった企業もあり、自分だけでは資金調達できないと廃業を考えるなど再建を諦めていた企業も、補助金が活用できたことで廃業せずに済んだ。大変、勇気づけられた。

(宮富士工業(株)は、) 昨年 6 月以降順次 6 名の新規採用を実現できたが、仕事が増え従業員を募集しても集まらないグループ内の企業もあり、今の課題。

●復興への思い

石巻市は溶接技術の高い地域、このグループがあることで、溶接と言えば石巻と言われるまで全国的な認知度を上げたい。

誰の責任でもない今回の大震災、自分の事は自分で立て直す、の意気込みで日々の復旧に取り組んでおります。

また、我々団塊世代、地域社会に対するご奉公のつもりで微力ながらも復興・復旧の力になります。

600 年の伝統産業を次世代へ！

グループ名：雄勝硯・雄勝石工芸等生産グループ

取材先：雄勝硯生産販売協同組合 千葉 隆志 事務局長 (宮城県石巻市)

雄勝石は、室町時代以来の伝統産業。

硯、石皿のほか建築資材にも活用され、東京駅の屋根にも使われている。

石は地域内で採石され、独特の黒い色は、加工段階で着色されることなく製品となる。

古くから、個人事業主を中心に、採石、加工、販売という分業体制で事業を行ってきた。

●震災の被害は？

雄勝地域は海岸沿いに位置し、湾になっているため、壊滅的な被害を受け、15名の組合員は、13名となり、ほとんどは雄勝地域に住むことが出来ず、バラバラの状態になってしまった。



●グループ補助金を活用された感想は？

「600年前から続く雄勝石を絶やさないよ」という一心。で、組合でグループ補助金を申請。

補助金は、切断機、研磨機などの設備の修理と導入に充てた。組合員には、機械を使いたい時に自由に使えるように組合事務局の隣接地にプレハブの作業場を設置した。

組合事務局は、中小機構が整備した仮設事務所(昨年11月完成)に入居した。

ただ、お客様から注文もあるが、ほとんど対応できない状態。

先細りが懸念される産業を何とか未来につないでいくため、若い職人3人を採用し、訓練を実施している。

●復興への思い

機械も石も全て被災し、とにかく0からのスタート。

ものづくりができる喜びは大きく、グループ補助金などの支援があったからこそ。大きな力になっている。

バラバラになっている組合員が、一日も早くこの地に返れるように頑張っていきたい。